

サントリーホール 35年の歩み〔1986～2020〕

		公演関係トピックス	その他のトピックス
1986年	10月	サントリーホール開館(12日) オープニングシリーズとして、1987年3月まで79公演開催。 小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団公演、 アイザック・スターンと仲間達、 シノーポリ指揮フィルハーモニア管弦楽団公演(演奏会形式「蝶々夫人」)、 アバド指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団公演、 国際作曲委嘱シリーズ、内田光子モーツァルトピアノ協奏曲全曲演奏会等。	初代館長 佐治敬三就任(～1999年11月)
1987年	5月	サントリーホール定期演奏会としてNHK交響楽団シリーズ開始。 「オルガンレクチャーシリーズ」開始。(～2013年)	
	8月	サントリー音楽財団主催「サントリーホール サマーフェスティバル」開始。	
	9月		サントリーホールメンバーズ・クラブ発足。
	10月		メンバーズ・クラブ会報誌「MUSE」創刊(2011年休刊)。
1988年	1月	「ニューイヤー・コンサート」開始。	
	5月	カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団公演。 カラヤンから「まるで音の宝石箱のようだ」とのコメント。	
	10月	「若杉弘／都響マーラーシリーズ」開始。(～1991年5月)	
1989年	1月	「オペラ・コンサートシリーズ」開始。第1回は「椿姫」、演奏会形式。	
	6月	新星日本交響楽団(現・東京フィルハーモニー交響楽団)定期演奏会開始。	
	7月	「ニューアーティスト・シリーズ」開始。(～2002年12月 75回開催)	
	9月	日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会開始。	
	11月	東京都交響楽団定期演奏会開始。	
1990年	5月	「こどもの日コンサート」開始。(～2008年)	
	7月	パースタイン指揮ロンドン交響楽団公演、パースタイン最後の来日公演となる。	
	10月	読売日本交響楽団定期演奏会開始。	シヨパン・コンクールへ「サントリー賞」贈呈。
1991年	3月	3週間にわたる「ザルツブルグ・モーツァルト音楽祭」をTBSと共催。	
	7月		開館以来の来場者数300万人突破。
	10月	開館5周年を記念して、「フェスティバル・ソロイズツ」結成。 昼間の無料コンサート「オルガン プロムナード コンサート」開始。 オランダ女王陛下主催ロイヤル・アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団公演。	
1992年	4月	東京交響楽団定期演奏会開始。	
	5月	「若杉弘／都響ワーグナー・シリーズ」開始。(～1994年7月)	
	12月	「ジルヴェスター・コンサート」開始。	
1993年	3月	ホール・オペラ。第一作「ラ・ボエーム」公演。	オペラ公演と同時に若手育成を目指す「オペラ・アカデミー」開始。
1994年	7月		開館以来の来場者数500万人突破。
	11月		サントリー(株)がサントリーホールの運営と活動で「メセナ大賞」を受賞。
1995年	2月	日本伝統的音楽のタベ「和の響」開催。(～2000年1月)	
1996年	1月	「若杉弘&NHK交響楽団ブルックナー・シリーズ」開始。(～1998年3月)	
	4月	「朝比奈隆ブラームス・テクルス」開催。(6月まで)	
	5月	サヴァリッシュ指揮フィラデルフィア管弦楽団「ベートーヴェン・フェスティバル」開催。	
	6月	学校単位での鑑賞コンサート「サントリーホールで音楽しよう」開始。(～2008年)	
	10月	サントリーホール10周年記念フェスティバルを1ヶ月にわたって開催。 サントリーホール デビューコンサート「レインボウ21」開始。(～2018年)	
1997年	1月	ヘルマン・プライによる「シューベルト・アールデ」開催。	ホームページ開設。
	6月		初代館長佐治敬三が「渡邊暁雄音楽基金・特別賞」を受賞。
	7月		10年経過後の保守点検のため約1ヶ月間閉館。
	9月	「朝比奈隆／新日本フィル ベートーヴェン・テクルス」開始。(～1998年6月まで)	地下鉄銀座線・南北線「溜池山王駅」開設。
	10月		サントリーホール音響設計で(株)永田音響設計に日本音響学会技術開発賞。
1998年	4月		アーク・カラヤン広場命名式。ウィーン・フィルメンバーら参加。
	9月	NHK交響楽団定期演奏会(Bプロ)開始。	
	10月		佐治敬三がNHK交響楽団より「第18回有馬賞」受賞。
1999年	3月	「ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン」開始。	ウィーン・フィルオリジナルグッズ、ギフトショップにて販売開始。 ウィーン・フィルより「フランツ・シャルク 金メダル」授与。
	5月		携帯電話・PHS等の受発信防止装置導入。
	6月	「サントリーホールのマスタークラス」開始。	開館以来の来場者数800万人突破。
	11月		佐治敬三逝去(3日)。

		公演関係トピックス	その他のトピックス
2000年	2月	朗読劇「Reading Session in Suntory Hall」開始。(～2002年2月)	2代目館長 鳥井信一郎就任(～2001年12月)
	3月	「サントリーホール BACH 2000」開催。(11回公演で12月まで)	
	7月	「それいけ！オルガン探検隊」開始。(～2018年)	地下鉄南北線「六本木一丁目駅」開設。 ウィーン・フィルによる「追悼 佐治敬三の会」開催(18日)。
	9月		
	11月		
2001年	4月	「サントリーホール土曜サロン」開始。2008年よりブルーローズサロンとして開催。(～2010年6月)	3代目館長 佐治信忠就任(～2007年8月)
		「東京交響楽団 & サントリーホール こども定期演奏会」開始。	
2002年	1月		開館以来の来場者数1,000万人突破。
	10月	タン・ドゥンに作曲委嘱したホール・オペラ®「TEA」を世界初演。	
2003年	1月	ホール・オペラ®「TEA」アムステルダム公演で世界へ発信。	ホール全館禁煙に。 「バックステージツアー」開始。
	2月	新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会開始。	
	4月		小中学生を招待する「佐治敬三 ジュニアプログラムシート」開始。 同時に教育的プログラムを「サントリーホール エデュケーション・プログラム」の名称で統一。
	5月		
2004年	4月	ホール・オペラ®「トスカ」で、「ブッチーニ・フェスタ2004-2006」開始。	サービス向上を図りチケットセンターをびあ(株)に運営移管。 開館以来の来場者数1,200万人突破。 カーネギーホールとエデュケーション・プログラムで国際交流提携。
	11月	ゲルギエフ、ウィーン・フィル提唱による「オセチアチャリティコンサート」に協力。	
2005年	3月	「パッパハの『結婚カンタータ』復元コンサート」開催。	ウィーン楽友協会と双方の音楽文化発展のため提携。
	4月	無料イベント「オープンハウス～サントリーホールで遊ぼう！」開始。	
2006年	6月		全館改修工事のため約5ヶ月間(4～8月)閉館。
	9月	サントリーホール20周年記念フェスティバルを2ヶ月にわたって開催。	
	10月	サントリーホール20周年記念ガラ・コンサート「THE GREAT 3 TENORS of Suntory Hall」開催。「ルツェルン・フェスティバル・イン東京」開催。	リニューアルオープン。4代目館長 堤剛就任。 小ホールを「ブルーローズ」と命名。
2007年	4月	アーケラヤン広場で無料イベント「こども音楽ひろば」開催。	
	5月		サントリーホール20周年記念誌を発刊。
	9月		
	11月	リニューアル記念としてティレマン指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団開催。	「サントリー1万人の第九」第25回記念「サントリーホールの第九」開催。
	12月		
2008年	3月	ホール・オペラ®「フィガロの結婚」で、「モーツァルト & ダ・ポンテ三部作2008-2010」開始。	カーネギーホールとの提携プログラム「カーネギーキッズ at サントリーホール」開始。 「レインボウ21インターナショナル」開始。(～2014年)
	4月		
	6月		サントリー音楽財団(現・サントリー芸術財団)創設40周年特別演奏会として「グルッペン」上演。
2009年	8月		
	9月	「サントリーホール & ウィーン・フィルの青少年プログラム」開始。	公益財団法人サントリー芸術財団設立 (サントリー音楽財団はサントリー芸術財団に移行)。
	10月	カーネギーホールとの提携プログラム「プロフェッショナル・トレーニング・ワークショップ」開催。	
	11月		館長 堤剛、「紫綬褒章」受章 大ホールでアメリカ合衆国オバマ大統領演説。
2010年	2月		
	8月	芥川作曲賞創設20周年記念 ガラ・コンサート開催。	エデュケーション・プログラムを、「Enjoy! Music プログラム」に名称変更。 パイプ・オルゴールのファンファーレを一般募集し選曲。(2011年1月より演奏開始)
	10月	「室内楽アカデミー」開講。	
2011年	6月	室内楽の祭典「チェンバーミュージック・ガーデン」開催。	開館以来の来場者数1,500万人突破。
	9月	世界の一流演奏家が集う「サントリーホール フェスティバル」立ち上げ、開催。 「オペラ・アカデミー」エグゼクティブ・ファカルティにジュゼッペ・サツパティエリ、新体制へ。	
	10月	「アークヒルズ音楽週間」開始。(2018年より、「ARK Hills Music Week」に改称)	公益財団法人サントリー芸術財団の傘下に、より公益性を目指す。 フリーペーパー情報誌「Enjoy!サントリーホール」創刊。(2016年休刊)
	12月		
2012年	4月		開館以来の来場者数1,600万人突破。 館長 堤剛、「文化功労者」に選出。
	8月	被災地の高校吹奏楽部生による「みちのくウインドオーケストラ」開始。(～2015年)	
	11月	「ウィーン・フィル & サントリー音楽復興基金」設立、事業開始。こどもたちのためのコンサートを宮城県で開催。	開館以来の来場者数1,700万人突破。
2013年	4月	「ウィーン・フィル & サントリー音楽復興基金」助成事業開始。	
	9月		天井耐震化工事実施、国土交通大臣天井認定 国内第1号取得。 開館以来の来場者数1,700万人突破。
	11月	芸術体験プログラム「港区 & サントリーホール Enjoy! Musicプロジェクト」(小学4年生対象)スタート。	
2014年	5月	洋楽、邦楽、歌舞伎、舞踊—時代・ジャンル・様式を越えた新たな舞台作品「卑弥呼」世界初演。(札幌コンサートホール、福岡シンフォニーホール、3館共同制作)	開館以来の来場者数1,700万人突破。
	11月	「サントリーホールのオルガン・カフェ」開始。	
2015年	4月		開館以来の来場者数1,700万人突破。
	5月	平日マチネ公演「日本フィル & サントリーホール とっておきアフタヌーン」開始。	

	公演関係トピックス	その他のトピックス
2016年	7月 サントリーアートキッズクラブ いろいろドレドレ (美術と音楽に親しむワークショップ&コンサート)開始。(サントリー美術館共同制作)	
1月		ホームページに30周年記念「世界のアーティストからのメッセージ」を公開。
4月		館長 堤剛、「ウィーン市功労名誉金賞」受賞。
5月	古代祝祭劇「卑弥呼」シンガポール公演 (エスプラネードコンサートホール)。	
10月	「サントリーホール30周年記念ガラ・コンサート」、「30周年開館記念日コンサート」開催。	名誉館長 佐治信忠 ウィーン・フィルより「フランツ・シャルク 金メダル」授与。
11月	ザルツブルク・イースター音楽祭 in JAPAN開催。 ホール・オペラ。ワーグナー:楽劇『ラインの黄金』上演	開館以来の来場者数1,800万人突破。
2017年	2月 改修工事に伴う休館前の最終日に「オルガン・リレー・コンサート」開催。	開館以来最長の全館改修工事実施。(2月～8月)
6月		館長 堤剛、「渡邊暁雄音楽基金」特別賞。
8月	ONE SUNTORYプロジェクト「みんなの第九」避難訓練付きコンサート開催。	フリーペーパー情報誌「Hibiki」創刊。
9月	リニューアル・オープン 「Reオープニング・コンサート」開催。	
2018年	8月 「サントリーホール サマーフェスティバル」開始。(サントリーホール主催に変更)	
12月	「サントリーホール室内楽アカデミー特別公演 ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ三重奏部門第1位記念 莫トリオ 凱旋リサイタル」を開催。	
2019年	1月	開館以来の来場者数1,900万人突破。
2019年	5月	「ロングライフビル推進協会第28回BELCA賞ロングライフ部門」と「日本建築学会 学会賞(業績)」をダブル受賞。
8月	「サントリーホール サマーフェスティバル」でオペラ『リトゥン・オン・スキン』を上演。	
9月	「サントリーホールでオルガンZANMAI」開始。	
11月	日埃友好50周年記念「音楽のある展覧会 ウィーン楽友協会アルヒーフ展『19世紀末ウィーンとニッポン』」開催。(ホテルオークラ東京 別館 アスコットホール) サントリー芸術財団 50周年記念事業『夢大きくー創設者・佐治敬三 生誕100年記念展示ー』開催。	
2020年	3月	新型コロナウイルス感染症の影響で、公演の中止、延期が相次ぐ。
4月		東京都の緊急事態宣言を受け、休館。(4月9日～5月末)
6月	無観客有料ライブ配信「日本フィル&サントリーホール とっておき アフタヌーン オンラインスペシャル」 「CMGオンライン」開催。有観客公演再開。	
11月	厳重な感染防止対策のもと「ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン 2020」を開催。	